

「市の財政状況と経営改革」住民説明会会議録

1 会議の名称	「市の財政状況と経営改革」住民説明会
2 開催日時	平成 26 年 10 月 28 日 (火) 19 時 00 分～21 時 15 分
3 開催場所	中央公民館 ホール
4 審議等事項	持続可能な行政運営に向けて
5 出席者名	(説明員) 佐久間市長、高橋副市長、小泉総務部長、 刈込企画財政部長 (事務局) 小柴行政管理課長、重城財政課長 (司会) 笹生総務課長
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第 23 条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	260 人 (定員 人)
9 所管課	総務部行政管理課行革推進係 電話 0439-80-1211
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

「市の財政状況と経営改革」に係る住民説明会 会議録

発言者	発言内容
総務課長	<p>定刻となりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>本日は、夜分お疲れのところ、お集まりいただき誠にありがとうございます。</p> <p>ただ今から市の財政状況と経営改革に係る住民説明会を開催いたします。</p> <p>今回の説明会につきましては、先の新聞・テレビ等の報道につきまして、改めて市民の皆さまにお伝えすることを目的として、小学校単位 11 地域で開催するものでございます。</p> <p>次に、説明の前に本日の説明員の紹介をさせていただきます。</p> <p>始めに、市長の佐久間清治でございます。</p> <p>副市長の高橋恭市でございます。</p> <p>経営改革等を主管する総務部長の小泉義行でございます。</p> <p>財政運営等を主管する企画財政部長の刈込幹夫でございます。</p> <p>申し遅れましたが、本日の司会を務めます総務課の笹生と申します。よろしくご協力をお願いいたします。</p> <p>次に、説明資料がお手元にあるかご確認をお願いします。大丈夫でしょうか？</p> <p>次に、ご質問につきましては、市長以下説明員の説明の後にお受けしますので、あらかじめご了解をお願いいたします。</p> <p>なお、説明を含めまして、一応の終了時刻の目安を午後9時とさせていただきたいと存じますが、状況により変更をさせていただきたいと考えております。</p> <p>それでは、始めに市長からご説明を申し上げます。</p>
市長	<p>夜分、お疲れのところ、また、本来であればお寛ぎの時間でありましようけれども、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>この度、富津市の財政状況につきまして、新聞、あるいはテレビ等の報道、そして、インターネットの記事等を通しまして、住民の皆さんに、ご不安とご心配をおかけいたしましたことにつきまして、改めて説明を申し上げたいと存じます。</p> <p>失礼して、座って説明させていただきます。</p> <p>まず、皆さま方にお知らせしなければならないことは、富津市は、これまで赤字を一度も出したことはありませんし、現在、赤字になっているわけではございません。ただ、財政調整基金を充当しているのだから赤字じゃないかというご意見はいただきました。</p> <p>何としても、破たんをさせません。</p> <p>今回、記者発表させていただきましたのは、このまま何もせず行政運営を続けていくと、財政状況は赤字になり、5年後に財政破たんしてしまう可能性があるということでございます。</p> <p>富津市では、これまで安全・安心のための事業を優先して行ってきました。また、年々増加している社会保障費、また、税収の減少によりまして収支不足が見込まれるなかでその財源不足を補うため、市の</p>

貯金であります財政調整基金を取り崩して参りました。

富津市の財政状況がこれまでと大きく違うのは、この財政調整基金が底をつき、平成 27 年度以降の赤字決算が現実のものとなったことでもあります。

お手元に配布いたしました資料中段左の「収支見込みのポイント」をご覧ください。

このままでいきますと、平成 27 年度から 31 年度までの 5 年間の財源不足額は 28 億円、平成 30 年度には積み重なった赤字額が 22 億円となり、財政再生団体となる可能性のある極めて厳しい見込みであります。

財源不足を補うための財政調整基金残高は、わずか 2 億円であります。

従前の財政収支改善策や、単年度の予算査定を中心とした歳出削減などの取り組みだけでは、この状況を克服することは困難であります。

そのために、これまでの財政運営だけに目を向けた改革ではなく、行政運営全体を見直す経営改革を断行するものでございます。

次に、資料最下段の四角枠、経営改革内容をご覧ください。

これまで皆さんから問い合わせをいただいておりますが、基本的に住民サービスは適正に維持して参ります。

まず、「①将来に向けての財政基準の作成及び実行」ですが、ここにお示ししました取組みを中心とした経営改革のための具体的なプランを策定するとともに、これまで財政調整基金を取り崩して財源としてきた富津市の財政運営を反省し、当該年度の歳入をもって歳出を賄うなど財政規律を厳格化して参りたいと考えております。

次に、「②公共施設の見直し」ですが、現在の危機的な財政状況を招いた大きな要因は、多くの公共施設を建設する際に、財源とした起債の償還額とその維持管理費の増大にあるといえます。市として真に必要な施設だけを将来世代に良好な状態で残し、それ以外の利用度の低い施設や、維持管理費の高い施設などは、売却、あるいは広域化などを積極的に進めて参りたいと考えております。

次に、「③事務事業の聖域なき抜本的な見直し」、「1 税収の確保」ですが、今後、税収の増加が見込まれない状況のなか、引き続き、滞納処分により税負担の公平性の確保をして参りたいと考えております。

「2 職員数の削減」ですが、現在の危機的な財政状況を回避するには、まず、内部経費を削減することに全力を尽くさなければなりません。歳出の大きな部分を占めます「人件費」の割合を削減することは当然であり、職員数の大幅な削減を実行して参りたいと考えます。

「3 行政サービスの見直し」であります。サービス水準を維持しながら、公共として将来にわたって提供すべきサービスの範囲はどこまでか、あらためて考える時期に来ていると思います。民間に任せべき事務も多くなってきております。サービス提供のあり方は多様化しておりますので、公共の直接行うべき範囲、民間に委ねるべき範囲を考えあわせ見直していきたいと考えます。

「4 受益者負担の見直し」ですが、行政が、特定の方を対象とし、サービスの給付をする場合、無料ないし過度に低廉な料金で提供することは、公平性の観点から望ましいものではないと考えます。行政サービスのコスト負担について、どこまでを「受益者負担」とするのか、見直して参りたいと考えております。

「5 民間活力の活用」ですが、行政サービスを受ける住民の皆さんにとっては、サービスの質が保証されることが一番重要であり、それが担保されれば、民間が供給する方が効率的である場合が多く見受けられます。行政サービスのなかでも、民営化・民間委託化が可能な分野は、費用対効果を考慮し、積極的に推進し、効率的なサービス提供を図って参りたいと考えております。

次に、資料下段右の「富津市経営改革会議」をご覧ください。

ただ今申し上げました、これら経営改革の内容を話し合うため、有識者で構成する「富津市経営改革会議」を設置いたしました。

今月 31 日の第 1 回会議をはじめといたしまして、議論していただくこととなっております。

最後に、この経営改革につきましては、私が先頭に立ち、職員一丸となって断行して参ります。

皆さまの更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。説明を終わらせていただきます。

次に、皆さんの方には資料がございませんけれども、これまでの説明会での主な質疑内容につきまして、ご報告をいたします。

まず、今回の報道関係について、「どうして夕張市と同じや破たんの報道が出たのか」、ということですが、先ほども申し上げましたとおり、財政調整基金残高が、底をついたことから、これまで 3 か月ごとに定例記者会見を開催しておりますが、去る 8 月 29 日の定例記者会見におきまして、経営改革の取り組みのなかで、中期収支見込みを発表いたしました。

この説明では夕張のようになります、破たんしますというような記者発表をしたわけではございません。このまま何もしなければ、5 年後には財政再生団体のレベルに達してしまうので、今の段階で抜本的な改革を実行すると発表いたしました。その際、財政再生団体の説明で、夕張市を例にしてお話ししたのは事実でございます。これが報道機関によりまして特別にクローズアップされたところでございます。

次に、「イメージダウン回復の戦略」でございますが、当然のことですが、できるだけ早く財源不足を解消し、そのことを住民の皆さんにお知らせできるよう、経営改革を断行して参ります。また、この間につきましても、改善状況をお知らせして参ります。

次に、財政状況について、「身の丈にあったというのはどういう意味か」ということですが、歳入の一般財源の規模をもって、すべての経費を賄うということでありまして、具体的には、中期収支見込みで見込んだ一般財源 110 億円程度を見込んでおります。

次に、「固定資産税が減少するのはわかっていたのではないか」「計画の段階で先が見えなかったのか」ということですが、これ

まで市では 5 か年計画をはじめ、さまざまな計画を策定して参りました。その間リーマンショックや東日本大震災、また、障害者自立支援法など国の制度の相次ぐ見直し等の特殊要因があったにいたしましても、その計画が結果的に過大であったことは、真摯に反省しております。

次に、「市税の滞納額も財政悪化の要因では、徴収を強化すべきではないか」ということでございますが、これにつきましては今までにも増して、滞納処分を強化して参ります。

次に、「国保などの社会保障費の増加は県や市町村の問題ではない、国への提言を怠っているのではないか」ということでございますが、これにつきましては、全国市長会等をとおしまして、強く申し出ているところでございます。

次に、経営改革関係につきまして「経営改革での具体的な見直し対象は」ということでございますが、普通建設事業費のうち未着手事業につきましては、例外なく見直しして参ります。また、着手済みの事業につきましても、その効果を再検討し、見直しして参ります。

職員数につきましては、抜本的にスリム化します。

公共施設は、適正な水準に保ちます。

財政状況が厳しいからと言って、介護、国保のような法定サービスは安定した状態で運営を行います。

個人の市民税・固定資産税などの普通税を引き上げるようなことは当然ながらいたしません。

次に、「学校統廃合にこれだけ時間を要している状況で、経営改革を短期間で断行できるのか、全てをゼロベースで見直さなければならない」ということでございますが、関豊小、環小が来年度から合併になります。市の方の意見だけでは進められませんが、現在教育委員会・教育部の方で計画に基づき、他の学校につきましても、順次地元のご意見を聞きながら、順次進めていきたいと考えております。

また、経営改革は短期的なもの、中・長期的なものとの区別して進める必要がございます。経営改革会議はこれら市の考え方を提示して意見をもらうかたちとなります。

次に、「改革にあたっての削減目標額は」ということでございますが、まずは、来年度予算で 3 億円の赤字を解消する、最終的に、今後 5 年間で 28 億円の赤字を解消するとともに、災害等に備え、できるだけ財政調整基金を積み増して参ります。

次に、「どんな事業をやめるのかはつきり示してほしい」ということでございますが、経営改革プランを作成するなかで、また、経営改革会議で議論していただき、示していきたいと考えております。

次に、「特別職報酬と一般職の給与削減は実施しないのか」ということでございますが、現在私が 15%の報酬削減、また副市長が 14%、教育長が 13%の削減をしております。また一般職につきましては 4%の給与削減などを実施しております。特別職につきましては、更なる見直しを実施して参ります。

次に、「震災時の状況から、職員数削減以前に事務事業の見直しを優

先すべきではないか」ということですが、当然、事務事業の見直しは実行して参りますが、並行して我々が標準と考える職員数まで削減を実行して参ります。

次に、「経営改革会議はどのような人で何名か」ということですが、大学教授 2 人、公認会計士 1 人、会社社長 1 人、県庁職員 O B 1 人の計 5 人です。

「経営改革会議委員に市民を入れないのはなぜか」ということですが、客観的な視点から富津市の状況について議論していただくことを考えまして、今回は、ただ今申し上げました外部有識者の、大学教授をはじめとする、5 人の委員構成といたしました。

次に、その他について、「議会の取り組みは」ということですが、執行部とは別に、議会自ら、いろいろな角度からの改革を検討されているとお聞きしているところでございます。

次に、「市民との対話の機会が少ない」ということですが。これまで、対話集会は何度か実施して参りました。今後も、他のテーマを含めまして、機会を作って対話集会を開催していきたいと考えます。

次に、「市長の決意表明は」ということですが、現在の財政状況を回復させることが私の使命であります。私の任期中できるだけ早く住民の皆さんにより報告ができるよう、経営改革を断行して参ります。

破たんをさせません。

以上が、これまで説明会のなかでありました、主な質疑内容でございます。よろしくお願い申し上げます。

総務課長

続きまして、補足説明を副市長及び両部長からご説明申し上げます。

副市長

改めましてこんばんは。

皆さま本来であればお寛ぎの時間だと思います。そのような時間に、このように大勢の皆さまに、説明会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、私どもが記者会見におきまして経営改革の取り組みの発表をさせていただきました。そのマスコミ報道につきまして、皆さま方に変なご不安をお与えたことにつきまして、心からお詫びを申し上げます。

今後の説明につきまして大変失礼ですが、説明に関しては、着座にて進めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

ただ今、市長が申し上げました経営改革の取り組みにつきましては、市長の命を受けまして、私の指示により、市役所全庁を挙げ、既に取り組みを始めさせていただいております。市役所内部に関することにつきましては、あらゆる事務事業を広い視野と、あらゆる可能性を諦めることなく、見直し、確認することを指示いたしますとともに、職員の提案や意見も取り入れ、作業に入らせていただいております。また、今後につきましては、経営改革会議のご意見を伺いながら、経営改革全般の方向性を取りまとめて参りたいと考えております。

企画財政部長	<p>差し迫りまして来年度予算につきましてでございますが、できるものから即実行して参ります。</p> <p>本日は、この後、財政状況につきましては、企画財政部長から、これまでの行政改革の取り組みにつきましては、総務部長から説明をいたしますので、お聞き取りいただきますよう、お願い申し上げます。</p> <p>皆さまには、今後の経営改革断行にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>先ほど市長から「市の財政状況」につきまして説明いたしたところでございますが、私からは「このような財政状況に至った原因」につきまして、補足させていただきます。失礼でございますが着席させていただきます。</p> <p>本市におきましては、平成 11 年度にそれ以前の事業の借入金によりまして、債務が増大したことから「財政非常事態宣言」をいたしました。</p> <p>そこで、債務を減少させ危機的な状況を回避するため、平成 11 年に「財政健全化計画」を策定し、これに基づき財政の健全化に向けて計画を実行し、その効果により債務が減少したことから、平成 17 年度には「財政非常事態宣言」を解除しまして、その後もそこで定めた、財政収支改善策を恒久的なものとして取り組んできたところであります。</p> <p>しかしながら、昭和 60 年から続く生産年齢人口の減少や、長引く景気の低迷によります個人・法人市民税の減収や、本市の税収の根幹であります、固定資産税の大幅な減収に加えまして、生活保護者の増加や、高齢化の進行によります障がい者や、介護を必要とする方々が増加いたしまして、扶助費などが、毎年増え続け、年々財政運営は厳しさを増しているところでございます。</p> <p>このような状況のなかで、歳入の減少に対応しました職員の定員管理を中心とする総人件費の抑制も不十分であったこと、また、近年、市の貯金であります財政調整基金などを活用して、総合計画をはじめといたします様々な計画に基づく事業を行ってきたところですが、その計画が結果的に過大であったことも、今般の状況に至った原因と考えています。</p> <p>今回公表しました、来年度の財源不足額は、3 億円ではありますが、夕張市の場合は、不足額が当市の 200 倍になりますので、当市とはまったく異なり、比較にはなりません。</p> <p>経営改革の実行によりまして、十分回復可能な数字であることをご理解いただければと思います。</p> <p>以上で説明を終わらせていただきます。</p>
総務部長	<p>よろしくお願いたします。</p> <p>私からは、今まで取り組んで参りました財政健全化対策、財政収支改善策、行財政改革につきましてご説明を申し上げます。着座にて失礼させていただきます。</p>

	<p>まず、財政健全化対策でございますが、平成 5 年度から財政非常事態宣言の平成 16 年度まで実施をして参りました。また、財政非常事態宣言を解除いたしました、平成 17 年度からは財政収支改善策を実施して参りました。</p> <p>これに並行いたしまして、行財政改革を、平成 11 年度から 15 年度までを第一次、平成 16 年度から 21 年度までを第二次、平成 22 年度から 24 年度までを第三次といたしまして推進をして参りました。</p> <p>まず、歳入確保策といたしまして、各種基金の設置目的に沿った処分や、未利用地の売却処分などがございます。未利用地の売却処分につきましては、現在も引き続き行っております。</p> <p>次に、人件費の削減といたしまして、職員数の削減、特別職の報酬カットや職員給与の昇給延伸などの抑制、手当の引下げ、議員等の定数削減や手当の見直し、学校用務員や調理場調理員の非常勤化などがございます。</p> <p>次に、維持管理費などの削減といたしまして、市営バスの廃止や、公共借地の見直しなどがございます。</p> <p>最後に、補助金や交付金などの削減といたしまして、補助金等の見直しを実施して参りました。</p> <p>これら総合計といたしまして約 117 億円の削減をいたしたところでございます。</p> <p>簡単ですが、以上で説明を終わらせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
総務課長	<p>説明が終わりました。</p> <p>ご質問をお受けいたします。恐れ入りますが、ご質問につきましては、挙手にてお願いいたします。</p>
(市民①-1)	<p>今日の資料についてですが、広報には両面で載っており、裏面に 25 年度決算がありました。なぜ今回資料を出していないのですか。</p> <p>通常物事は、現状があり将来どうするかです。現状について資料がありません。これで説明できますか。</p> <p>中期収支見込みは、27 年度から 31 年度までの 5 年間ですが、一把からげて数値が出してあります。経営改革を行うということで、年度別にどのように推移していくか数値がなくてどのように説明するんですか。</p> <p>要するに、資料になっていないということです。本当に現状を踏まえていますか。</p> <p>現状富津市の人件費は、25 年度決算において、25.8%だと思います。近隣町村のなかで、数字が高いということは把握していますか。</p> <p>人員の削減について、会社で言えば経営側は、どのように責任を取りますか。</p> <p>広報には、重要な健全化判断比率が載せてありました。このような資料も載せていなくて、説明になりません。</p> <p>こうした状況のなか、10 億 8 千万もかけて消防署の事業をやっている</p>

<p>企画財政部長</p>	<p>いのですか。今後払う借入金はどうなんですか。</p> <p>資料が欠けている点に関しては、ご指摘のとおりです。お詫び申し上げます。</p> <p>一般財源の赤字額を今後どのように解消していくかということですが、現在の制度・計画で進みますと表のような赤字が進み、5年間で28億の累積赤字が見込まれます。今後の改善策としまして、先ほど申し上げました経営改革プランや経営改革会議での意見を踏まえながら、策定していくということでご理解いただきたいと思います。</p> <p>人件費につきましては、25年度決算で歳出に占める割合は、25.9%になっております。</p> <p>消防防災センターの借入金ですが、約10億円です。</p>
<p>(市民①-2)</p>	<p>事業は、市ホームページを見ましたが、10億8千万かかっていますよね。全額借り入れということですか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>全体の事業費については、11億ほどかかっています。そのうち借入金は、10億8千万となっています。</p>
<p>(市民①-3)</p>	<p>市の視野には、10億5千300万と書いてありました。この事態のなかで、借入金をしてまで何でやったのか。どのような理由でやらざるを得なかったのか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>東日本大震災が生じました。そのようななかで、市の消防防災の拠点となる小久保にあった消防署は老朽化し、機能が果たせないといったことで整備を進めました。</p> <p>借入金については、確かに多額であり、これが重なると後年の財政運営に負担がかかります。ただし、この負担を考えただけでの予算を執行しなくてはなりません。借入金自体については、長期的に使うこともあり、その世代の方にご負担ということではなく、世代間でご負担をいただくという面で、起債という制度がございます。</p>
<p>(市民②-1)</p>	<p>今回の記者会見の内容は、どなたが決めたのですか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>市長です。</p>
<p>(市民②-2)</p>	<p>富津市のイメージダウンの責任は、市長にあるということによろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>先ほども申し上げましたが、記者会見では経営改革の関係を発表しました。そのなかで、「夕張市のようになる、破たんする」ということではなく、5年間の状況を示したところでございます。結果的にイメージダウンとなったことは、大変申し訳ないと考えております。</p>

<p>(市民②-3)</p>	<p>経営改革会議条例に、委員は 10 人以内で組織するとありますが、行政側は誰が出席しますか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>市長・副市長・総務部長・企画財政部長、事務局として行政管理課長・財政課長・財政課長補佐です。</p>
<p>(市民②-4)</p>	<p>その方が運営してきて、現在この状況ですが、しがらみはありませんか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>しがらみはなく進めておるつもりです</p>
<p>(市民②-5)</p>	<p>市民の声も吸い上げてください。 今回の有識者は、どなたが任命しましたか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>10 月 31 日に市長から委嘱状を渡します。</p>
<p>(市民②-6)</p>	<p>今回の 5 人は、市長が選んだということによろしいですか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>過程は踏んでおりますが、最終的に任命権者は、市長になります。</p>
<p>(市民②-7)</p>	<p>この状態にしてしまった市長が任命するのは、いかななものかと思えます。</p>
<p>(市民③-1)</p>	<p>浅間山にバスストップが計画されていますが、6 億円くらいと聞いています。この時期にあえて建設する理由はありますか。決まったものなのか、今後見直ししていく余地があるものなのか。君津にバスストップがあるのに、何で浅間山に必要なのか。 平成 23 年から 25 年にかけて、財政調整基金が減って、特定目的基金が増えていますが、特定目的基金とはどのようなものですか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>館山自動車道が、平成 30 年度までに 4 車線化というなかで、内房線の君津以南が単線化ということもあり、首都圏への通勤・通学のため、人口流出の歯止めということで進めて参りました。今回の経営改革に当たりまして、再度事業効果を検証のうえ、実施の可否を判断していきたいと考えております。 特定目的基金とは、福祉や学校教育の振興等、使い道が決まっている積立金となります。23 年度から 25 年度に増えている要因は、下水道の整備を行うために、市が積み立てたものになります。</p>
<p>(市民③-2)</p>	<p>歳出を減らしていくのは当然ですが、歳入を増やす計画はありますか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>具体的なものは、今後更に検討して参りますが、市税の滞納処分を徹底し、徴収を確保していかなければなりません。また、新たな取り</p>

<p>(市民③-3)</p>	<p>組みで、収入を増やしていくとして、ふるさと納税といった制度もございまして、広めていかなければなりません。また、新富地区の企業誘致も進めておるところです。 今後も収入アップの方策を具体的に考えていきたいと考えております。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>消防署と浅間山を決めるのは、どのような人が参加して、どうしてそのようなものを決めるのか。どのような事業見通し・収入・効果があり、どのようなプロセスで決めたというような、決定のプロセスを公開することが必要だと思っておりますが、どのように考えていますか。</p>
<p>(市民④-1)</p>	<p>通常の事業については、執行部の計画を、議会に説明しながら予算のご審議をいただきます。バスストップについては、地元の区長さんを含めたなかで、説明をさせていただいております。 ご指摘のとおり、経営改革の取り組みのなかで、情報公開、市民の皆さんへの説明責任を果たしていかなければならないと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>市長、副市長、皆さんが大変心配しているという重みを感じていただければありがたいです。 こんな記者会見は聞いたことがないと聞きました。これからは、慎重に考えたなかでやってもらったらありがたいです。 市長にお聞きします。今いくらもらっていますか。副市長も言ってください。</p>
<p>(市民④-2)</p>	<p>15%カットしていますので、76万5千円です。</p> <p>定額は、90万だそうです。今年度のみ76万5千円、ボーナスが316万3,950円、1期務めると退職金が1千345万6,800円、4年間で6,250万です。それで金がないとはどういうことですか。 副市長は、今67万800円で定額は78万だそうです。ボーナスが277万2,900円、1期の退職金が842万4,000円、合計で852万7,500円だそうです。 市会議員の給料は、1か月45万円、ボーナスが177万7,500円だそうです。合計で年間852万7,500円という数字になります。 いくらお金があっても足りません。全国で市会議員の給料が高いのは、どこか分かりますか。富津市が全国で一番高いそうです。 館山市が、富津市と同じくらいの人口で給与が34番、鴨川市が33番だそうです。日光市は約87,000人いるそうです。そこでも42番だそうです。市長も給料を半分に下げてください。 富津中学校のドーム型は、3億かかったと聞いています。中学校の体育館でドーム型は、全国で富津市だけだそうです。 市長は、給料はどのくらいカットする見込みですか。</p>
<p>市長</p>	<p>現在は15%カットですが、今後更に見直しをいたします。</p>

<p>(市民④-3)</p>	<p>良心のある政治をやってください。</p>
<p>総務部長</p>	<p>議員報酬が全国 1 位というのは違いますので、訂正させていただきます。</p>
<p>(市民⑤)</p>	<p>経営改革会議の進捗状況を、広報等何かの方法で市民に公表してください。</p> <p>過去 5 年間の事業計画ですが、大貫駅周辺の 5 か年計画を立てた経緯があると思います。未着工のものは一から見直す、着工しているものは、それなりの見直しをしていくということだと思います。今立てている計画に、住民は期待しています。それを中止・延期となった場合は、住民に説明されると思いますが、見直しに含まれるか危惧しています。ですので、改革会議の進捗状況や、どういうところをどのように見直すか具体的に細かく、職員が出向いて説明をしていただきたい。</p>
<p>総務部長</p>	<p>会議の透明性、皆さんにお知らせをと、考えております。広報やホームページ、また、会議も公開です。逐次お知らせしていきます。事業については、抜本的な改革をやるつもりで進んでおります。</p>
<p>(市民⑥)</p>	<p>環境問題についてお尋ねします。</p> <p>富津市は、金谷までありますが、富津市の一番大きな川は湊川です。湊川の上流に大きな産業廃棄物処分場があります。また、浅間山の山砂が都会に運ばれ、都会からは産廃が富津市に運ばれ、残土があちこちに埋められています。千葉県で一番大きな産業廃棄物処分場が富津市にあります。大塚山処分場のことでお願いしたいことがあります。この処分場は、2006 年に漏えいをしています。去年は、その川の水を使って稲を作っている方の田んぼが枯れてしまったということがありました。こういうことは、あまり知られていないということで発言しています。</p> <p>この処分場が更に拡張するというので、富津市長・市議会は反対しました。全議員が一致して、千葉県知事に意見書を出しました。漏えいの対策も整っていないうちに、拡張するという計画は進んでいるわけです。これについて、今年の 3 月 27 日に千葉県知事が許可してしまいました。千葉県一大きな処分場に、そこへ更に入ることになります。</p> <p>このことについて、放射性廃棄物が入ってきます。塩化物イオンが川へ出ています。そのため、田んぼにも影響したわけです。許可してしまいましたが、塩化物イオンの濃度を下げることはできます。川に広がっていかないために、議員や市長の力で止める必要があるのではないか。納得できない千葉県の許可した経過を、納得のいく対応を求めていただきたい。</p>

(市民⑦)	<p>職員を3年にわたってカットするということですが、簡単に職員をカットして、どのくらいお金が残っていくんですか。</p> <p>市長・副市長とそうそうたるメンバーがいて、5年後に赤字なんていいんですか。着席して話しているような、穏やかな話ではないと思います。</p> <p>県会議員・国會議員がいておかしいと思います。職員をカットして、どのくらい節約して、何年後にはどのくらい儲かって、財政再生団体にならないメリットがあるんですか。</p> <p>すぐ職員をカットする、年金を下げる、簡単なところから手を入れますが、夕張市は血の涙を流しているのではないですか。着席してする話ではないと思います。</p> <p>職員をカットして、君津・木更津・袖ヶ浦に居住を移されたら、住民税・固定資産税も取れません。市長・副市長・市役所の人たちは、もっと住民のことを考えてほしいと思っています。絶対をお願いします。</p> <p>市長も住民も同じラインだと思います。もう一度心から考えて、企業誘致はぜひ上手くやってほしいです。このままだと若い人がいなくなってしまう。市役所だって大事な職場です。再考する余地があると思います。</p> <p>私たち市民も頑張るから、市民の皆さまにはこういう部分で財政再生団体にならないために協力してくれと、これがこの説明会の1番の趣旨ではないかと思っています。一市民として協力できることがあれば、そこからスタートしてください。お願いします。</p>
(市民⑧)	<p>市長はじめ市の幹部からの説明は、理解できました。</p> <p>理解できないのは、市税の滞納です。新聞紙上には8億という数字が出ています。今まで、8億もの滞納の対策を今までどのように取っていましたか。また、分析をしてありますか。昔、納税組合があったと思いますが、その時の税収はどのくらいありましたか。納税組合を廃止して税収が減ったか、税金の補助金は矛盾していると思いますが、滞納整理をしなければ、この市の財政は大変厳しいではないですか。8億滞納があるということは、8億放置されているということです。市民は、苦しいなか税金を納めているんです。8億を黙っていることはおかしいと思います。今後改革を進めるときには、この滞納問題について真剣に協議してください。</p>
(市民⑨-1)	<p>経営改革会議について質問します。市民を入れないのは、しがらみを排除するためとおっしゃいました。メンバーを聞くと、前に座っている財政危機を招いた張本人です。その張本人は、しがらみがないのでしょうか。本来ならそのような人を排除して、他の人が検討していくのがこの会議の狙いではないのでしょうか。張本人の責任を逃れるために、やるような気がしてなりません。この会議のメンバーはどうでしょうか。</p>

<p>総務部長</p>	<p>先ほどお話したのは、メンバーではございません。執行部の出席者ということで話をしました。</p> <p>会議の 5 人は、北海道大学公共政策大学院教授の原田賢一郎さん、千葉大学人文社会科学研究所長教授の大塚成男さん、落合公認会計士事務所公認会計士の落合幸隆さん、株式会社キミカ代表取締役社長の笠原文善さん、元千葉県県土整備部理事の堺谷操さんとなります。</p>
<p>(市民⑨-2)</p>	<p>出席されている前の方々は、発言はないわけですね。</p>
<p>総務部長</p>	<p>私どもは、このメンバーからの質問に回答する立場です。</p>
<p>(市民⑨-3)</p>	<p>傍聴者の 30 人も非常に限られています。例えば市ホームページで流すとか、公民館等に映像を流し、そこで見られるような皆さんに知らせる方法を考えてはどうですか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>第 1 回目は、30 人とご案内しています。第 1 回目は、今日の説明のような富津市の財政状況を説明し、それに対する質疑、その後は市の状況を見ていただくため、市内の施設を回ります。</p> <p>30 人しか会場には入れませんが、音声だけ聞いていただくことも考えております。インターネット中継については、市でやるかどうかではなく、この審議会で諮ることになっています。ご理解ください。</p>
<p>(市民⑨-4)</p>	<p>生で流れることに意味があって、後では編集が可能です。</p>
<p>(市民⑩-1)</p>	<p>以前議員定数を減らしましたが、今回具体的に減らすことはできますか。今 47,000 人に対して 18 人です。君津市は、約 90,000 人いて 24 人です。議員は、給料に加え政務活動費も出していると思います。1 人議員を減らせば、職員を何人も雇えると思います。そういうところを具体的に数字に出してほしいです。</p> <p>市制施行してから人口が 50,000 人になり、その後数年で 58,000 人までなったと思います。それからは、下がる一方です。富津市は、全く魅力を感じない町だからです。教育や、子どもの医療費などの魅力がないから、若い人がどんどん出て行ってしまい、ますます収入がなくなってしまう。何か具体的な案がないと、固定資産税は減ってくるだけです。</p> <p>魅力のあるビジョン、提案を我々にしてください。</p>
<p>総務部長</p>	<p>議員定数ですが、議会改革委員会等で、いろいろな角度から検討されると聞いております。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>魅力のある市につきまして、ご指摘のとおりだと思います。</p> <p>経営改革のなかで、財政基盤を確立し、持続可能な経営運営を確立したうえで次代につなげていきます。</p> <p>市に現在ある人・もの・資源を活かしたまちづくり、若者に住んで</p>

<p>(市民⑩-2)</p>	<p>もらうようなまちづくり、併せて取り組みをしていかなければならないと痛切に感じております。</p> <p>議員は、富津市は 2,600 人に 1 人います。君津は、3,600 人に 1 人です。人口が減ってきているのに、何も対策を取らなかったからこのようなことになっているんじゃないですか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>交通面や、道路等の基盤整備、事務関係の取り組みを進めて参りましたが、有効策がなかなか見出せていません。今ある資源等を見直したうえで、若者、また、子育てにきていただけるような環境づくりも併せて考えていきたいと思っております。</p>
<p>(市民⑪-1)</p>	<p>鴨川市や鋸南町は、活性化策が目に見えて分かります。富津市は何も見えません。活性化策は、今まで何をやってきたか答えられますか。現状維持で職員に給料を支払っているのは、納得できません。議員も同じです。</p> <p>削減のことばかりですが、歳入です。魅力ある市を作ることで住民が増える。市の職員でさえ市外に出ている。市から給料をもらっているのだから市に税金を納めるべきです。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>企業誘致での雇用促進ということで、新富地区に 53 企業が進出決定しており 97%進んでいます。更に取り組みを進めて参ります。また、観光 PR も積極的に取り組み、地域資源を見直し、活用するよう取り組んでいかなければなりません。ご指摘は真摯に受け止めます。</p>
<p>(市民⑪-2)</p>	<p>今回の説明会等について結果、5 年後の展開を、住民に分かるようにフォローするようにお願いします。</p>
<p>(市民⑫-1)</p>	<p>財政調整基金は、災害などの不測の事態に備えて積み立てるとあります。他市では、この基金を積み増ししているのが実態です。それを取り崩しているということは、当時どのような業務を行っていたんですか。本来やるべきことをやっていないからこのような事態になったのではないですか。</p> <p>富津市がこのような事態になったことに対して、本質的に納得していないと思います。企業と同じように、景気が悪くなったからといって従業員を解雇するという姿勢で臨むことは、市の停滞を一層速めると思います。</p> <p>きちんと将来計画を立て、当時はどのような議論をし、富津市を立ち上げるかという施策を持っていましたか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>財政調整基金は、年度間の財源調整、また、災害等不測の事態に対応するための基金ですので、積み増ししていきたいと考えております。</p> <p>市の財政構造が、通常入ってくる収入、通常使われるお金に使う状況のなかで、学校の耐震等結果的に無理が生じたと考えています。</p>

	<p>経営改革会議は、市の財政状況を示し、分析・指摘いただき、財政構造を健全なものに転換していきたいといった趣旨でございます。</p>
<p>(市民⑫-2)</p>	<p>グラフを見ると、3年前に、前年度約5億5千万あったものを減らしています。千葉県は自然災害の少ない県と言われていますが、何のために不慮の災害のときに積み立てる要素があったのですか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>富津市に、生活保護費をもらうために移り住んだ人がいると聞きました。財政の足を引張るようなことを黙殺した行政の手腕を改めて見直ししてください。</p>
<p>(市民⑬-1)</p>	<p>経営改革会議を動画配信してください。</p>
<p>総務部長</p>	<p>動画配信については、会議において諮るということになっていますので、ご理解いただきたいと思えます。</p>
<p>(市民⑬-2)</p>	<p>傍聴者が、動画を撮ってもよいのですか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>それについても会議で諮ることと、情報公開の規定になっております。その日に申し出があったら諮るということになります。</p>
<p>(市民⑭-1)</p>	<p>27年度から31年度の収支決算見込みをベースに検討されているようですが、経営改革会議とは何をするか見えません。5年間の経営改革の具体的なプランを作る場所なのか、プランは市の職員が考えて、会議に提案し揉んでもらい、最終的に結論を出すのか。経営改革会議の位置づけは、どういうものですか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>経営改革会議の位置づけは、市長の諮問機関として設置しました。市長の諮問に対する答申と考えております。</p> <p>経営改革プランは、今後の行財政のあるべき姿を決め込んでいくことが最終目的ですが、まず、事務事業を抜本的に見直し、意見をいただきながら市が意見を出す、それについての論議をいただきながら進めていきたいと考えております。</p>
<p>(市民⑭-2)</p>	<p>目前に来年の予算編成の時期を迎えていると思いますが、市の職員が対応するんですか。この会議での意見を参考に聞くだけということですか。市は、この会議の意見を聞いて、検討し、プランを考え実行するといった体制を、どのように組まれているのか教えてください。</p>
<p>総務部長</p>	<p>平成27年度の予算編成は間近に迫っております。27年度の予算に反映させるもの、早急にやらなければいけないもの、中長期で対応すべきものといった区分けが出てきます。</p> <p>執行部の考え、会議からの提言・ご意見を併せて経営改革プランを作ると考えております。</p>

<p>(市民⑭-3)</p> <p>総務部長</p>	<p>現在は、経営改革を実行する体制が、市の組織にはできていないということですか。この諮問機関の意見を聞きながら、これから考えていくということですか。</p> <p>現在は、総務部と企画財政部の担当から、財政健全化対策会議というものを設けて進めております。そのなかで、経営改革会議に諮るもの、今後進めていくものを検討する組織として、既に動いております。</p>
<p>(市民⑭-4)</p>	<p>諮問機関も大事だと思いますが、市の職員の方で意見を聞きながら、早急に体制を整え、実行に移して、実績を公表してください。</p>
<p>(市民⑮-1)</p>	<p>富津市で生活していくには、経済的な基盤が欠かせないと思います。経済的な基盤というのは、雇用がないと生活できません。他市に若い人が出て行ってしまうというのは、富津市に雇用の場がないから出て行ってしまいうわけです。雇用が必要だと思います。</p> <p>高齢化率が高まるなかで、若い人が減っていくと、市長が言った安定した税収を確保するというのは、厳しいと思います。</p> <p>安定した税収を確保するというのは、具体的にこれからどういうまちづくりをするのか。</p> <p>第3次基本計画が27年度に向かってありました。それが実現できれば、かなり豊かな安心したまちになっていたはずですが、第3次基本計画は、どのような状況になったのか。</p> <p>若い人が出て行ってしまふと、安定した税収が図れない。そうすると行政サービスに支障が出てきて、北3市に若い人が行ってしまふというような、悪循環が生まれてくるのではないかと思います。</p> <p>代々の市長・行政を見てくると、はっきりしたまちづくりのイメージが確立されていないようにしか見えません。佐久間市長が、具体的にどのようなまちづくりをするのか、明確なビジョンを出してほしい。地方創生が出てきたときに、真っ先に富津市がどのような検討をしたか、していないのか、即対応しなければ遅れを取っていくと思います。</p> <p>今やっていることが大事で、結果が出るのは何年か先になります。富津市が破たん状態とメッセージが出たのは、後手に回った印象を受けます。</p> <p>まずは、佐久間市長が、これから明確な富津市のビジョンを示すことが大事だと思います。</p> <p>経営改革会議ですが、気休めにならないような会議にしてください。</p>
<p>市長</p>	<p>若い人が転出してしまふ、雇用の機会が必要であるというご意見ですが、そのとおりだと思います。企業誘致をし、できるだけ雇用の機会を作ろうということは、現在も取り組んでおります。</p> <p>何とか富津市から通えるような状態にするということも一つだと思います。公共交通あるいは、道路の整備等が必要です。</p> <p>ビジョンについては、安心・安全なまちづくり、安心して子育てができるまちづくりが必要だろうということです。人口減少にあるなか</p>

<p>企画財政部長</p>	<p>で、いかに富津市で暮らしていくか、安全がメインになってくると思います。地場産業関係も更に進めていかなければならないと考えます。</p> <p>地方創生については、今富津市にある人・もの・資源のなかで、地方のアイデアが求められます。</p> <p>具体的な内容は示されておりませんが、予算編成のなかで、地方創生につながる事業を担当に投げかけ、予算と平行して進めております。</p>
<p>(市民⑮-2)</p>	<p>税収の確保というのは、サラリーマン世帯が増えることです。それには企業誘致、働く場が複数あるというのが当たり前になります。高齢化率が高まるにつれ、安定した税収の確保というのは、非常に厳しい状態だと思えます。</p> <p>新聞に、財務省が 35 人学級から 40 人に戻すと約 90 億の財源ができるとありました。また、学校の統廃合の促進をすると、1 万 8 千人の教員が削減でき、数千億円の財源ができるというようにありました。</p> <p>これに富津市はどのように対応するのか。関豊小は、解決したと思えますが、課題の佐貫小・佐貫中は今後どうするのか併せて教えてください。</p> <p>法人税も含め、特に市民税は減ると思えます。安定した税収の確保というのが、かなり厳しいと思えます。そうすると悪循環に陥って、行政サービスも滞り、若い人が外に出て行くというような状態が繰り返されると思えます。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>生産年齢人口が、個人住民税につながって参ります。企業誘致や首都圏への通勤・通学といった、人口流出の歯止めのための施策も行っているところです。人口流出の歯止め・減少に対応した組織を見直し、経営そのものといった大きな見直しが必要ということで、取り組みを始めたところです。</p>
<p>(市民⑯)</p>	<p>東京から数年前に引っ越してきました。富津市は、東京からするとすごくいい雰囲気、いい町です。富津市は東京から近いです。そういったよさを、どのように東京の人に伝えるか。環境破壊するような製造業を誘致することは必ずしも正解ではないと思えます。富津市の魅力をいかに売り込んでいくか認識していただきたい。</p> <p>経営改革会議の人選を見ても、大学の先生では意見が出ないと思うので、実際にまちおこしをやったコンサルタントの先生のような即戦力になる人達を呼んで、即戦力になるプランを立てていただきたい。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>首都圏の近接性、今ある資源を再認識するなかでの取り組みにおいて、企画力を磨かなくてはならないと、ご指摘ありがとうございます。そのように取り組みたいと思えます。</p>
<p>総務部長</p>	<p>経営改革会議委員の人選ですが、教授というのは言いつばなしだのご意見もありましたが、今回選びました方は、財務に長け、国の委員</p>

総務課長	<p>にもなられている方です。もう 1 人の方は、地方分権関係に関わってこられた公共施策の方で、前職が、内閣府地域主権戦略室ということで総務省にも関わっている方です。前の方も地方創生で国が立ち上げたもの、国からの情報が入るようなかたちでとお願いしてあります。</p> <p>観光にも力を入れております。観光大使も 2 人いらっしゃいます。東京都、他でも宣伝していただき、観光キャラバンにも出ております。</p> <p>最後に、市長からご挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>本日は、遅くまでご出席・ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。いろいろ皆さま方から、ご指摘・ご提言をいただきました。</p> <p>それを、しっかり胸に入れて、経営改革を進めていきたい、断行していきたいと考えております。</p> <p>何としても破たんさせるわけにはいきませんし、破たんさせないということで、私はじめ職員一丸となって進んで参ります。</p> <p>どうぞ皆さま方の今まで以上にご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日の御礼の言葉にさせていただきます。</p> <p>本日は、誠にありがとうございました。</p>
総務課長	<p>以上で説明会を終了させていただきます。</p>

以上